



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 平成24年10月22日 第585号「週刊五十嵐レポート」

経営の立て直し

経営を立て直すには、「資金繰りの解消」と「利益性の構造改善」の2つが必要。

まずは「資金繰りの解消」。中小企業の場合、来年3月期限の金融円滑化法の活用で金融機関に返済計画の変更等により資金繰りを解消する。大企業の場合は、メイン銀行をはじめ協調融資で当面の資金繰りを解消する(シャープなど)。

次に「利益性の構造改善」。いわゆる選択と集中。強みをみつけ、強みをより強く。弱みは切り捨てる。

経営を立て直すのに「奇手」はなく、当たり前のことを当たり前にやること。この当たり前のことを実践するのが難しい。一つは、知識の欠如。売上を上げようと思うばかりに、いろいろな商品や事業に手を出す。集中ではなく分散。集中は一つのことに力を集めるため、「強み」になる。「強み」の数が多くなれば、会社の業績は良くなる。一方、分散は力が殺がれていき、「弱み」になっていく。弱みばかりの商品・事業では業績は悪くなる。

二つ目は、組織。トップ(本部)と現場の距離間。トップの意思決定が現場まで届かない。逆に現場の声がトップまで伝わらない。もしくはトップから現場への一方通行。現場からの上申された案件をトップが意思決定できていない。良いことは気づいたら即やることができている。スピードが欠ける。中小企業の中でも従業員数100人～200人規模の会社で起こる「組織の階層」の問題。トップと現場の間に管理職及び管理部門が生まれ、役割分担が明確になっていない。管理職や管理部門があることによって情報伝達が遅れ、または途切れる。組織はあくまでも手段。簡素化する必要がある。

現象として会議の多い会社は情報伝達が鈍く、業績は良くない。会議の少ない会社は日ごろ情報伝達ができおり、業績は良好。会議からは1円の粗利益も生まれない。

ちょっと
気になる出来事

平成24年10月16日(火)、午後6時30分より、東京都トラック協会江戸川支部の勉強会に講師として招かれました。

テーマは2年前に出版した本のタイトル、

「会社は潰れるようにできている

～小さな会社はランチェスター法則で勝ち抜きなさい～」。

後日、参加された経営者の方から「大変良かった。これからも経営の勉強をしていきたい」というコメントをいただきました。

このお話は、東京都トラック協会江戸川支部から江戸川区産業振興課に勉強会の講師として誰かいい人はいないか、ということからはじまり、江戸川区産業振興課から私を推薦していただきました。

有難いことです。



一口メモ
成功の秘訣

成果をあげるための第二ステップ

第二ステップは、貢献に焦点を合わせることである。これは作業的ではなく概念的であり、機械的ではなく分析的であり、効率的ではなく成果への関心の段階である。貢献について徹底的に考えなければならない。

貢献について自らの問いは簡単であり、定型的であってよい。自らに対し、高い水準を課すことを必然とする。エグゼクティブとしての責任ある行動を要求する。

エグゼクティブは、自らの視点の焦点を貢献に合わせることによって、手段ではなく目的を中心に考えるようになる。

P.F.ドラッカー著「経営者の条件」(ダイヤモンド社)

- 週刊五十嵐レポート 毎週月曜日発行 ● 月刊五十嵐レポートダイジェスト
- 町コンランチェスター経営戦略塾「会社成功塾」 毎週日曜日 午前10時～12時。
- 町コン・ランチェスター経営戦略セミナー 毎月東京開催

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

03-3659-7703 Fax 03-3659-7077 tigaras@attglobal.net

